

4. 令和4年度 学校経営報告

東京都立科学技術高等学校 校長 久保 剛

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策 [] 内は令和3年度数値
<p>1 特色ある教育活動</p> <p>(1)スーパーサイエンスハイスクール指定校として、課題研究を中心とした探究カリキュラムを構築する。</p> <p>①科学技術に関する実験・実習の内容を充実させて専門性を高める、課題研究等で自らテーマを決め、検証・分析して考察する取組を充実させる。</p> <p>②SS科学技術探究等の学校設定科目を中心に、あらゆる教科で生徒の探究的学びへの指導法を工夫し、すべての生徒の研究発表の機会を支援する。</p> <p>③SS工学技術基礎などのカリキュラム開発を推進する。</p> <p>④カリキュラムマネジメントを働かせ、専門教科と普通教科を連携させた実践例を積み重ねる。</p> <p>⑤小中学校や他の高校と連携して、科学技術教育の普及に努め、科学技術人材を育成する。</p> <p>⑥SSH予算の図書購入、図書館利用の活性化により読書率を向上させる。</p> <p>(2)とうきょう総文2022自然科学部門幹事校として、多くの生徒に実行委員会等で関わる機会を設け、生徒のリーダー性を育成し大会を成功させる。</p> <p>(3)英語による研修・発表等による交流活動を推進し、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>①英語をツールとして自分の考えを伝えるための英語研修を実施する。</p> <p>②インド、台湾の海外校とのオンライン相互研究発表の機会を作る。</p>	<p>(1)校内の研究発表内容の質を高め、校外の研究発表件数を増やし、生徒の主体性を育成し、発信力を高める。</p> <p>①生徒の主体性を伸ばすポスター・口頭等の校外における研究発表会への参加を活性化する。</p> <p>②全国レベルの研究発表会やコンテスト等に挑戦する活動を活性化する。</p> <p>(2)とうきょう総文自然科学部門幹事校において、研究発表等に加え、生徒交流会や他県生徒の巡検等において本校生徒が中心的役割を担い、一生に一度の全国大会運営に貢献する。</p> <p>(3)英語研修プログラムや海外オンライン交流に取り組み、生徒の苦手意識を払しょくして問題解決力・発信力を高める</p> <p>①夏季休業中にエンパワーメントプログラムを実施する。</p> <p>②台湾・インドとのオンライン交流を実現し、より多くの生徒の参加を促す。</p> <p>【数値目標】</p> <p>①校外研究発表の件数 200件以上〔213〕</p> <p>②全国大会レベルの受賞件数 10件以上〔13〕</p> <p>③SSH関連研修・イベント参加生徒延べ人数450名以上〔354〕</p> <p>④海外交流、海外研究者講演会、英語研修 10件以上〔10〕</p>
<p>2 学習指導</p> <p>(1)進学指導研究校として、質の高い授業を実践できるように努める。</p> <p>①基本的な知識・技能を習得させるとともに、それを活用できる学習活動に取り組む。また「主体的・対話的で深い学び」を実践する。</p> <p>②双方向の授業を行い、生徒が思考・判断・表現する場面を設定することにより、生徒の主体的な態度を醸成する。</p> <p>③相互授業参観を活性化し、OJTを充実させる。</p> <p>④外部での授業研究等の研修成果を教科会等で還元し授業改善に努める。</p> <p>⑤朝・放課後の学習活動、補習を活用してきめ細かな指導を充実させる。</p> <p>(2)新学習指導要領・大学入学共通テストに対応するために、「教科マネジメント」を確立する。</p> <p>①3年間を見通した指導計画を作成し、指導と評価の一体化を目指す。</p> <p>②習熟度別・少人数授業の展開を工夫し、きめ細かな指導を充実させる。</p> <p>③定期考査・外部模試等の分析の充実を図り、生徒による授業評価を活用し、授業改善に取り組む。</p>	<p>(1)授業改善に組織的に取り組み、生徒の学力向上を図る。</p> <p>①生徒による年2回の授業評価アンケートを実施し、結果を分析して改善につなげるPDCAサイクルを確立する。</p> <p>②校内の相互授業参観、校外の指名制による授業見学を活用して授業満足度を高めていく。</p> <p>③指導と評価の一体化に取り組む。</p> <p>(2)新学習指導要領に対応した取組</p> <p>①生徒による授業評価の質問項目の文言を修正し、観点別評価に則した分析結果が得られるように変更する。</p> <p>②多角的な評価を検討し、ルーブリック等を確立する。</p> <p>(3)適時適切な課題（宿題）を設定し学習習慣の定着を図る。</p> <p>・課題の履行状態と目標達成度を把握し、個々の状況に応じた支援を行い、家庭学習時間の充実を図る。</p> <p>【数値目標】 生徒による授業評価アンケートの肯定的評価の割合95%以上〔90〕</p>
<p>3 進路指導</p> <p>(1)3年間を通した一貫した進路指導体制を構築する。</p> <p>①進路部主導の指導体制を確立し、一貫性あるキャリア教育を展開する。</p> <p>②外部模試毎に目標設定や分析会を実施し、適宜ケース会議を設定するなどして学校全体で情報共有を図る。</p> <p>③自習室等の検討や自主学習体制の課題を整理するとともに、学習支援クラウド等のデジタル技術を活用した教育を推進する。</p> <p>(2)国公立・難関私立大学の理系学部受験、および総合型・学校推薦型選抜に向けた指導を強化する。</p> <p>①年2回以上の生徒面談や年1回以上の三者面談を通じて、生徒一人一人の適性・能力に応じた大学選抜方法等の指導を行う。</p> <p>②長期休業中の講習・補習、総合型選抜に対応した面接指導など個別指導を充実させ、多様な大学選抜方法を活用し、生徒の進路実現を支援する。</p> <p>(3)生徒の進路実現に生きた資格取得指導を展開する。</p> <p>①英語検定の事前指導を充実させ、受験を推奨する。</p> <p>②ITパスポート、電気工事士、危険物取扱、溶接等の資格取得に向けて、計画的に取り組む。</p>	<p>(1)生徒の自主学習時間の向上を図り、第一希望大学進学へ向けて支援する。</p> <p>①各種講演会、説明会、模試の振り返り指導を定期的を実施し、進学意識を高めるとともに学力推移を把握する。</p> <p>②学習支援クラウド等のデジタル技術を活用し、自学自習の学習スタイルの確立を図る。</p> <p>(2)外部模擬試験等を計画的に実施し、個別ケース会議等を取り入れ、きめ細やかな指導を行う。</p> <p>①外部模擬試験の全員受験の事後指導の充実と希望者向け受験の活性化を図る。</p> <p>②全職員が関わる面接指導等を展開し、卒業まで学びを継続する支援・指導を行う。</p> <p>(3)資格取得に向け、学校開催や外部人材活用等に取り組む。</p> <p>・英語検定学校開催、溶接等の外部人材活用を活性化する。</p> <p>【数値目標】 ①国公立大学現役合格者数15名以上〔9〕</p> <p>②四年制大学現役進学率65%以上〔65〕</p> <p>③授業以外での学習時間 2時間以上（全学年平均値）</p> <p>④長期休業の講習等の開講講座数80件以上〔52〕</p>

令和4年度自己評価

令和5年度以降の課題と対応策

<p>(3) 自己評価</p> <p style="text-align: right;">〔 〕 内は〔昨年度数値〕</p>	<p>(4) 次年度以降の課題と対応策</p>																												
<p>1 特色ある教育活動 【B】</p> <p>【数値実績】</p> <p>①全国大会レベルの受賞件数10件以上 13〔13〕 ○ 千葉大学、金属学会、藤原ナチュラルヒストリー振興財団、国際理解研究協議会等の主催する高校生研究発表会で受賞、東京理科大学賞研究論文コンテストでも受賞した。</p> <p>②校外研究発表の件数 200件以上 187〔213 (R2は85)〕 大会・コンテストが集合開催に戻り口頭・ポスター発表件数が昨年同等レベルを堅持(対面発表を望む生徒多く、昨年同様のオンライン開催の大会には発表件数が減少)</p> <p>③SSH関連研修・イベント参加生徒数の増加を目指す 参加生徒450名以上◎ 全国高校総文祭東京大会自然科学部門に幹事校として約250名が参加し貢献した。 参加イベント数は39〔37〕、参加生徒数465名〔354名〕</p> <p>④海外交流、海外研究者講演会、英語研修の実施10件以上 10〔10〕○ エンパワメント英語研修への参加生徒増加、インド、台湾とのオンラインでの交流、大島インターナショナルとの交流</p> <p>⑤教科連携の授業実践例5例以上 通年で3例実施 工学技術基礎において、数学・理科・科学技術科が連携して通年実施3例</p> <p>⑥読書率75%以上 71%〔72%〕</p>	<p><課題></p> <p>①②③について 校外発表件数や受賞数は高いレベルを維持している。参加イベント数や全国総文東京大会など参加生徒数は前年を上回った。ほとんどの発表会が集合開催に戻り、対面での質疑応答で実践力が身に付いている。一方、オンライン開催を継続する大会への参加件数が減少したことが校外発表目標件数に達しなかった一因である。</p> <p>④夏の英語研修は昨年より参加者増、海外研究者講演会は年度末の開催となり参加者が減少したことが課題である。</p> <p>⑤工学技術基礎は数学・理科の教員が入り、新たな試みとなり、授業評価も高かった。次年度も継続していく。</p> <p><対応策></p> <p>①②③関連：校内での研究発表の内容を充実させ、校外発表へ挑戦する生徒数を増やす素地を作る。</p> <p>④海外研究者講演会は学年行事等に入れ、年度前半で実施し多くの生徒が参加できるように計画する。</p>																												
<p>2 学習指導 【A】</p> <p>生徒による授業評価を7月、12月の年2回実施し、新学習指導要領に合わせて質問項目を改訂するとともに、フォームのデジタル集計に変更した。結果は職員会議で周知し、個人の自由意見も閲覧可能とした。</p> <p>【数値実績】</p> <p>生徒による授業アンケートの肯定的評価割合の目標85%以上</p> <table border="1" data-bbox="127 974 782 1120"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年(普)</th> <th>2年(科)</th> <th>3年(普必)</th> <th>3年(選)</th> <th>3年(科)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「知識技能」</td> <td>91</td> <td>90.1</td> <td>93.0</td> <td>90.2</td> <td>95.4</td> <td>93.5</td> </tr> <tr> <td>「思考判断表現」</td> <td>90</td> <td>87.7</td> <td>91.6</td> <td>90.5</td> <td>90.4</td> <td>92.6</td> </tr> <tr> <td>「主体的な取組」</td> <td>84.6</td> <td>91.6</td> <td>90.2</td> <td>82.2</td> <td>87.2</td> <td>88.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注釈)数字は%、(普)は普通教科、(科)は科学技術科専門科目、(普必)は普通教科必修科目、(選)は普通教科必修選択および自由選択科目</p> <p>※肯定的評価は向上している。主体的に取り組む態度は進級すると低下する傾向にあったが、丁寧な面談によって分野選択したこともあり、全学年で高水準を維持している。</p> <p>○「科学技術探究(1年)」では年度末に1人1テーマでポスター発表を実施。主体的・対話的な学びの実現に向けて、全生徒が他の発表を見る機会を継続実施出来ている。</p> <p>○指名制による授業研究等の機会の活用は今年も少なかったが、センター特別指定校予算を活用した予備校講師による授業力向上セミナーはオンライン受講が可能であ</p>		1年	2年(普)	2年(科)	3年(普必)	3年(選)	3年(科)	「知識技能」	91	90.1	93.0	90.2	95.4	93.5	「思考判断表現」	90	87.7	91.6	90.5	90.4	92.6	「主体的な取組」	84.6	91.6	90.2	82.2	87.2	88.0	<p><課題></p> <p>生徒による授業評価は左記の3項目に加えて、「意欲をわかせてくれるか」という設問がある。こちら概ね肯定的評価は高い。観点別評価導入1年目であるため、質問項目変更等を3年程度継続していく中で分析し、傾向や課題を明確にしていく。</p> <p>一方、生徒の学習姿勢として、課題等の提出状況が良くない。3観点となり各教科の提出課題が増えたことやデジタルによる提出が増えたなどの原因もあるが、生徒それぞれの学習習慣や課題提出に向けた意識付けが今まで以上に必要となっている。</p> <p><対応策></p> <p>教科主任会等を通して課題を共有し、生徒の実態を把握するとともに、指導と評価が一体となるよう改善に努める。</p> <p>より主体的に取り組めるように良い授業実践を取り組むための研修を積んでいく。次年度も予備校講師による授業力向上セミナー等に教員を派遣し教科に還元する取組や、校内での相互授業見学の機会をとり授業改善に取り組む。</p>
	1年	2年(普)	2年(科)	3年(普必)	3年(選)	3年(科)																							
「知識技能」	91	90.1	93.0	90.2	95.4	93.5																							
「思考判断表現」	90	87.7	91.6	90.5	90.4	92.6																							
「主体的な取組」	84.6	91.6	90.2	82.2	87.2	88.0																							
<p>3 進路指導 【A】</p> <p>【数値実績】</p> <p>①国公立大学現役合格者数15名以上 12〔9〕 東京大学1、東京都立3、東京農工1、千葉1、前橋工科1、長岡技術科学1、山口東京理科1、職業能力開発総合大学校2、秋田1</p> <p>②四年制大学進学率65%以上 73%〔65%〕◎ 早稲田・上智・東京理科等の指定校推薦に加え、東京理科・明治・中央等の一般受験合格者も増加した。※進路決定率92%〔80%〕◎</p> <p>③授業以外での学習時間2時間以上 108.5分〔67分〕 リクルート到達度テストのアンケート調査(3学年分)に加え、進路部でも調査を7月、2月に実施(※進路部調査は全数調査ではない)</p> <p>④長期休業の講習等の開講講座数70件以上 56件〔52〕 冷房工事で期間を区切って実施した。また、今年度は進路部が進路希望別に開講講座の重複がないように調整した。冬季休業・春季休業中も実施あり。</p> <p>⑤英検準2級程度以上の合格者数70名以上 66名〔R3:54名←R2:32名〕 土曜講習にて、事前指導・学校受験を実現し大幅に受検者が増加した。次年度以降も事前指導をより充実させる工夫を継続する。 ※模試分析シートを作成し、模試分析会を職員会議前半で実施することを定例化した。昨年度から進学指導研究校となり、指導部より助言受ける</p>	<p><課題></p> <p>開校以来の東京大学合格者を輩出した。学校推薦選抜型での合格は本校の培ってきた教育の成果といえる。今後も研究活動と普通教科の基礎学力形成を進めていく。</p> <p>指定校合格者53名(昨年62名)は以前として高い数値であるが、一般選抜合格者が増加し、進路決定率も高い数値であった。次年度も丁寧な三者面談、最後まで粘り強く進路指導を継続して生徒の進路実現につなげる。</p> <p>学習時間調査は学期始めのアンケート調査に加え、進路部でも調査した。家庭学習時間は向上したが、改善途上であるため継続指導が必要である。</p> <p><対応策></p> <p>日頃の授業の充実とともに、外部模試の活用及び分析を的確に行い、生徒それぞれの進路目標を明確にしていく。長期休業中や土曜講習の内容の充実を図り、意欲ある生徒の支援を充実させる。さらに、英検受検者は学校受験が実現でき受検者数は増加したものの、合格者数が</p>																												

<p>4 生活指導</p> <p>(1)挨拶から始まり、規律ある学校生活の中で、自立の精神を養う。</p> <p>①挨拶の響く明るい学校を推進し、教職員の率先垂範を徹底する。</p> <p>②遅刻防止指導と身だしなみ指導を全教職員で指導する。</p> <p>③授業時間を最大限活用するとともに、チャイム始業及び終業を徹底し、机上整理等の授業規律指導を通して、自己管理能力の育成を図る。</p> <p>④地域や関係諸機関と良好な関係を構築し、生徒の健全育成や、登下校のマナー向上などの課題解決を図る。</p> <p>④学校いじめ対策委員会を中心に指導体制を充実させ、いじめのない学校づくりを推進する。また、体罰や不適切な指導の根絶に努める。</p> <p>⑤防災教育推進委員会と連携し、地域防災訓練及び年4回の避難訓練を計画・実施する</p>	<p>(1)全職員が組織的に生活指導に取り組む。</p> <p>①「SNS学校ルール」に基づいた指導と、「生徒一人1台端末」に向けた体制整備に取り組む。特にSNSに関する指導は年度当初のセーフティ教室等で徹底を図る。</p> <p>②年2回以上の生徒面談を実施し、生徒理解を深める。年1回以上の三者面談を実施し、保護者との連携をとる。</p> <p>③いじめアンケートを年3回(6月、11月、1月)に実施し、未然予防、早期発見に努める。</p> <p>【数値目標】年間遅刻回数1日1学級1人未満〔0.68〕 学校評価アンケート「生活指導は適切か」生徒の肯定的評価の割合80%〔80.5〕</p>
<p>5 募集・広報活動</p> <p>(1)本校の認知度、教育活動への理解度を高め、第一希望とする生徒を増やし、受検者増につなげる。</p> <p>①総務部を中心として募集対策委員会を学年・分掌を問わず編成し、積極的な募集広報活動を展開する。</p> <p>②ホームページ更新回数を増やし、教育活動や生徒の活躍を情報発信し、学校案内やチラシ等を効果的に活用する。</p> <p>③学校見学会、体験入学、学校説明会、個別相談等を実施し、外部合同説明会等に出来る限り参加し、来校者数増につなげる。</p> <p>④中学校訪問・塾訪問を実施し、様々な地域からの志願者を開拓する。</p> <p>⑤コロナ禍の感染状況に配慮しつつ、授業公開、公開講座等により地域に開かれた学校を目指す</p>	<p>(1)学校見学会・説明会の充実と適時適切な情報発信を行う。</p> <p>①都立高校合同セミナーの本校開催及び学校見学会・説明会の一層の内容充実を図る。</p> <p>②定期的なHPトップの改訂とSSH関連行事の取組を発信し、本校の魅力を周知する</p> <p>③広報活動実施時期に合わせた情報発信、説明動画の配信等を実施し、一層の効果を高める。</p> <p>【数値目標】</p> <p>①ホームページ掲載記事 200件以上〔175〕 ②入選推薦応募倍率 1.6倍以上〔1.52〕 ③入選学力検査応募倍率 1.8倍以上〔1.87〕 ④入選学力実受検倍率 1.2倍以上〔1.23〕</p>
<p>6 保健・健康づくり等</p> <p>(1)健全な心身を育む取組を実践する。</p> <p>①学校保健計画に基づき、体力や健康づくり、食育指導充実を図り、健康観察を継続し教室環境等を整備することにより感染予防体制を充実する。</p> <p>②スクールカウンセラー(以下、SCと略)や学校心理士等を活用し、教育相談体制や特別支援教育体制を充実させる。</p> <p>③清掃活動やごみの分別を徹底して校内美化活動を推進する。</p> <p>④健康診断や体力テストを活用し生徒の健康維持、体力向上を図る。</p>	<p>(1)教育相談機能の充実を図る。</p> <p>①SCによる1年生全員面接を1学期中に実施する。</p> <p>②教育相談委員会を定期開催し要支援生徒情報を共有する。</p> <p>(2)美化・清掃活動を徹底する。</p> <p>①ごみの削減に取り組むとともに校内美化に取り組む。</p> <p>【数値目標】①教育相談委員会開催回数15回以上〔16〕 ※教育相談に限らず特別支援が必要な生徒にも対応する。 ②学校評価アンケート(清掃状況)肯定割合70%〔67〕</p>
<p>7 特別活動・部活動</p> <p>(1)特別活動・部活動を充実させ、生徒の帰属意識を高める。</p> <p>①体育祭、四葉祭、修学旅行等の学校行事において、実行委員会を中心に取り組む態度を育成し、成就感や達成感を高める。</p> <p>②部活動加入を奨励し、部活動加入率を高め、文化部・運動部ともに活動を活性化させる。</p> <p>③生徒会活動でリーダー性を育むとともに、委員会活動を充実させる。</p> <p>④地域や関係機関との連携を密にして、地域行事やボランティア活動への参加する活動を活性化させる。</p> <p>⑤学校2020レガシーを継承し国際理解やスポーツへの興味関心を高める</p>	<p>(1)学校の「新しい生活日常」に基づき、学校行事の実施内容や形態を見直し、各学校行事の伝統継承や刷新の取組を支援し、一層の充実を図る。</p> <p>①コロナ禍においても可能な限り実施出来る工夫を尽くす。</p> <p>②生徒会・委員会の主体的な活動を支援する。</p> <p>(2)部活動の適正化や活性化に取り組む。</p> <p>①生徒の実態把握に努め、保護者との連携を密にして、魅力ある部活動作りに取り組み、加入率を高める。</p> <p>【数値目標】①部活動加入率80%〔75〕 ②学校評価アンケート(学校行事)肯定割合80%〔73〕</p>
<p>8 学校経営・組織体制</p> <p>(1)組織的な学校運営を推進する。</p> <p>①企画調整会議と各分掌、経営企画室との連携を強化する。</p> <p>②空調工事の進捗状況共有を徹底し、施設・設備の管理体制を強化する。</p> <p>③年3回の服務事故防止研修等により、SNSの取扱い、個人情報の管理や体罰根絶対策を徹底する。</p> <p>④体育施設開放、公開講座の開講等により、本校の施設や教育力を地域等の都民へ広く還元する。</p> <p>⑤「理科科」に向けたカリキュラム検討等を推進し、東京都教育委員会とも連携して進捗状況を共有する。</p> <p>(2)ライフ・ワーク・バランスを推進する。</p> <p>①部活動の休養日設定、業務の効率化に努め、育児や介護等を支援する。また、在校時間を抑え、教職員の勤務時間に対する意識改革を図る</p>	<p>(1)マネジメントサイクルの機能を高める。</p> <p>①戦略的な予算編成、産業振興予算による備品配置等により、経営企画室の学校経営への参画を強化する。</p> <p>②学校運営連絡協議会の協議委員による提言を活用する。</p> <p>(2)ライフ・ワーク・バランス推進の取組として、教職員の在校時間の縮減を推進する。</p> <p>①学校閉庁日の適切な実施、「休暇取得促進ウィーク・月間」等を活用し、年休取得の促進を図る。</p> <p>②看護休暇・短期介護休暇・時差勤務等の利用を推奨する。</p> <p>【数値目標】 学校評価アンケート(学校生活の充実感)肯定割合85%〔85〕</p>

<p>4 生活指導 【B】</p> <p>【数値実績】</p> <p>○年間遅刻回数 1日1学級1人未満 0.97〔0.68〕△</p> <p>年度を通して8時35分始業体制となり、時差通学を実施していた昨年度と一概に比較できないが、遅刻者数は増加した。</p> <p>○学校評価アンケート「生活指導は適切か」生徒肯定的評価84.7%〔80.5〕○</p> <p>①SNSに関わる指導案件が多く、次年度も継続的な指導が必要である。</p> <p>②年2回以上の生徒面談、特に2年は選択科目について、3年は進路について3者面談を全員に実施し、保護者とも連携を取るよう努めた。</p> <p>③いじめアンケートを年3回確実に実施し未然予防および早期発見が出来た。</p>	<p><課題></p> <p>遅刻指導は学年・生徒部・管理職で指導しているが、特定の生徒が回数を重ねる例が多く課題といえる。また、SNSに係る生徒指導は年々問題が多様化して非常に対応が難しい状況がある。</p> <p><対応策></p> <p>遅刻指導は年度当初に指導の在り方を全職員に周知し、課題を共有していく。SNSの適性な指導も新入生招集日等での指導や年度当初のセーフティ教室実施により、適性な人権感覚を身に付けさせ、継続的指導を実践していく。</p>
<p>5 募集・広報活動 【A】</p> <p>【数値実績】</p> <p>①ホームページの更新200回以上 208回〔175〕○</p> <p>②推薦入試倍率 1.5倍以上 1.25倍〔1.52〕△</p> <p>③学力検査倍率 最終応募倍率1.6倍以上 1.88倍〔1.87〕○</p> <p>実受検倍率 1.2倍以上 1.35倍〔1.23〕○</p> <p>※ホームページは更新記事が増え目標件数を超えた。4月の合同相談会を本校にて実施し、早期段階から認知度の向上に努めた。</p> <p>※プレゼンテーション実技への回避傾向があり推薦倍率は低下した。しかし、育成したい生徒像と関連させた方針であるため、粘り強く広報していく。</p> <p>※学力検査の応募倍率・受検倍率ともに昨年度を上回り、SSH指定校の取組やSS特進クラス等の取組などが一定の評価を得ていると分析する。</p>	<p><課題></p> <p>課題であった学力検査受検倍率は改善傾向を継続、中進対の第一希望調査も改善している。しかし、学力検査当日不受検は67名（昨年80）と依然として多い。加えて推薦選抜は実技検査への回避傾向は見られた。本校の特長を理解し第一希望とする中学生を増やすことが課題である。</p> <p><対応策></p> <p>年度当初から広報活動を展開する。本校の魅力を伝える為に、本校を会場とした高校合同セミナーや女子体験講座を継続実施する。塾や中学校へも訪問して理数科設置も含めて、広く本校の教育活動を周知する機会を作り、志願者層の掘り起こしの為の様々な手法を取っていく。</p>
<p>6 保健・健康づくり等 【A】</p> <p>【数値実績】</p> <p>○教育相談に係る委員会開催回数15回以上 16回〔16〕</p> <p>○学校評価アンケート（清掃状況）生徒肯定割合70%以上 76.6%〔67.1〕</p> <p>①SCによる1年生全員面談を1学期中に確実に実施</p> <p>②教育相談に加え、特別支援（個別の支援計画等）について協議し、考査受験方法等の合理的配慮などを複数例実施した。</p> <p>③年間廃棄物排出量は、前年度より登校日数が増加したため比較できないが、登校日数の割合では減少傾向にある。</p>	<p><課題></p> <p>教育相談では、特別支援に関する案件が増加傾向にあり、従来のSCと巡回心理士の活用に加え、他の支援機関等の活用も随時実施してきた。今後も定期的にケース会議等を実施し適正な支援につなげていく必要がある。</p> <p><対応策></p> <p>今後も教育相談委員会を中心に、支援の必要な生徒を早期段階で発見し、具体的な支援につなげていく。また、感染段階に見合った指導を全校体制で展開していく。</p>
<p>7 特別活動・部活動 【B】</p> <p>【数値実績】</p> <p>○部活動加入率 75%以上 62%〔75.5%〕</p> <p>・加入率が減少したが、科学研究部の全国レベルの受賞をはじめ、ロボット部やレゴ競技部の全国大会出場などの活躍があった。</p> <p>○学校評価 質問11（学校行事を通した多様な生活体験をさせる工夫）肯定的評価 生徒81.1%〔73.2〕、保護者67.3%〔68.0〕</p> <p>※体育祭は雨天中止となり残念だったが、コロナ禍に対応した文化祭の計画・運営が実施できた。保護者は1家庭2名、中学生の限定数を事前予約制、完全入替制で実施し、生徒の達成感・満足感を得たと感じている。3年生の参加形態については課題があり、今年度に生徒実行委員も含め協議し、変更の方向性を示すこと</p>	<p><課題></p> <p>コロナ禍で部活動紹介等が十分に実施できず部活動加入率は低下傾向にある。学校行事においては、文化祭の3年参加を生徒実行委員会も含めて協議し、新しい参加形態とした為、その意義を十分に周知した上で、生徒が主体的に取り組める学校行事を実現させていく。</p> <p><対応策></p> <p>年度当初の部活動紹介等を充実させ、部活動加入率を上げていくとともに、適正な活動方針を示し内容を充実させる。行事に限らず、実行委員会や生徒会、クラス代表の生徒たちが主体的に行事運営等に関わるように、委員会等の</p>
<p>8 学校経営・組織体制 【B】</p> <p>【数値実績】</p> <p>学校評価アンケート(学校生活の充実感)生徒肯定度59.4〔85〕</p> <p>学校評価アンケート(学校生活の満足度)生徒肯定度74.5〔74.2〕</p> <p>※充実感の低下、満足度は昨年並評価という結果をどのように分析するか、判断が難しいところだが、充実感の向上に向けて特色ある取組を継続していく。</p> <p>○経営企画室と連携し空調工事の進捗管理、産業振興予算による備品配置は予定通り完了。</p> <p>○時差勤務の申請者増加、部分休の取得と合わせ10名以上が有効活用。</p> <p>※4種プロジェクトチームにより学校改革のスピード化を図ることに努めた。</p> <p>※令和6年度理数科設置に向けて教育委員会との定例会を開催し、コンセプト、入学者選抜方法、学科名の学校案、教育課程案、広報チラシを確定した。</p>	<p><課題></p> <p>左記のアンケート結果を受け、コロナ後の教育活動に対して、生徒にどのようにして充実感を味合わせるかが課題である。また、SSH予算、センター指定校予算、自立経営予算等の各種予算を連動させ、より良く有効活用することを念頭に置き対応していく。さらに令和6年度理数科設置に向けても委員会を活性化させ、様々な課題を早期段階で一つ一つ解決していく。</p> <p><対応策></p> <p>コロナ後の教育活動・学校行事等の活性化に向け、経営企画室と十分に連携して、適正かつ柔軟な予算執行を実現していく。また、地域に向けての発信を工夫していき、地域と連携した取組を増やしていく。</p>

（評語の説明） A：設定した目標を高度に達成 B：設定した目標を概ね達成
C：設定した目標を達成するにはもう一歩 D：設定した目標はほとんど未達成